

## 4つの森林活動

みなさまの参加を  
お待ちしております



小手澤の森  
第1・3日曜日



知足の森  
第1・3日曜日



相模湖・嵐山の森  
小原本陣の森  
不定期活動

# News Letter

## NPO法人緑のダム北相模

[midorinodam.jp](http://midorinodam.jp)



No.649-650

技術が上がってきている時期、径の大きいものに挑戦

### 【定例活動報告】

暦の上では春を迎えましたが、現場は今、別の意味で「春」の真っ最中です。前回の活動では、一歩歩くたびに足元から黄色い煙が舞い上がるほどスギ花粉が降り積もっていました。間伐でスギを切り倒した際も、黙々と立ち上る煙がすべて花粉だと気づいた瞬間は、あまりの光景に戦慄を覚えたほどです。

二月の第一日曜の定例活動では、孫山の登山道普請に向けた事前調査を実施しました。そして第三日曜には、中高生たちの探究活動の一環として、早生樹であるセンダンの苗木を植樹しました。当日はテレビ番組のロケハンも重なり、生徒たちは「自分たちが映るかも！」と一様にテンションが

緑のダム北相模は相模原  
市内で活動する森林ボラ  
ンティアです。急がず、無  
理せず、楽しく、休ま  
ず、ボチボチと・・・



高かったのですが、ロケハン用の映像は放送されないと知った時の落胆ぶりには、申し訳なくも思わず笑ってしまいました。そんな賑やかな光景に、活動の広がりを実感した一日でもありました。

そんな活動の最中、私個人にとって嬉しい発見がありました。最近、生の木を削る「グリーンウッドワーク」に興味を持ち、初心者向けに最適なホオノキを探していたのですが、植樹の道中、足元にホオノキ特有の大きな落葉を見つけたのです。意識して歩くことで、今まで見えていなかった森の姿が立ち現れた瞬間であり、身近な場所に「宝物」があったことに胸が躍りました。

凄まじい花粉に翻弄されつつも、森は常に新しい気づきを与えてくれます。これからも学生たちや皆様と共に、この豊かなフィールドを守り、慈しんでいければ幸いです。

湯元 啓之（本会、理事）

## 【定例活動報告】 知足の森

午前中は四つのグループに分かれて間伐をしました。私のグループはかなり山の上の方の木を選びました。作業がしづらい急斜面だったので、足場をしっかりとって行いました。割とひらけた場所だったので、倒す方向もすぐに決まりました。ただ、高い位置なので木を倒した時にバウンドしてしまうことが懸念でした。それを防ぐため、受け口の角度を浅くしようと計画を立てました。しかし計画通りにはいきませんでした。滑車をつけてロープで引っ張ることにしました。意外とすぐに倒れそうでした。3人という少なめな人数でロープを引っても、すぐに木を倒せました。今回は選んだ木がよかったんだなと思いました。

午後は薪割りをしました。初めの方は振り下ろす時にズれて、スパッといかなかったけれど、だんだんとコツを掴み、最後には真ん中をスパッと出来るようになりました。今日の森は学びが多い1日でした。テスト前ですが、行って良かったと思えました！

宮田 怜奈（GTE LAB 2年女子）

今日はセンダンの苗木15本を植えました。センダンはケヤキの代替材として使われるように良質なのに加えて成長速度も早く、スギやヒノキの2~3倍の速さで成長するという特徴があり、今、注目されている樹種です。このセンダンの成長と環境条件がどう関係しているのかを調査するために私たちが活動している森で植樹を行いました。特に森林のギャップに注目して光環境や周辺環境の比較実験をするため合計3ヶ所に植樹しました。足場が悪くて滑ったり歩きにくかったりと大変でしたが同時にとても楽しかったです。庭師の方に来ていただき、どのように植えたらいいか、どこに植えたらいいかなど貴重なアドバイスを頂くこともできました。次回はシカの食害などの被害を防ぐために苗木の周りをネットで囲む予定です。成長が早いと言っても木であるため実験には長い時間かかるとは思いますが、なにか新しい発見に出会えたらいいなと思いました。



熊谷 碧（東京都立国立高校2年女子）



# 桜井尚武の 森のコラム

## 「シキミ (*Illicium anisatum*)」

シキミ科の常緑小高木。新しい分類 (APG(Angiosperm Phylogeny Group)分類体系) ではマツブサ科シキミ属。樹高はよく見られるものは5、6m程度が多いですが10m以上になるものもあり、直径は30cmほどになります。

常緑の葉は互生ですが伸長した枝先の周囲に集中して発生して偽輪生状を呈します (図1)。葉長は10cm程度、葉縁は全縁で無毛、質は柔らかく厚めで葉脈は目立たず裂いたり傷をつけると強い芳香を発します。3月から4月に淡黄緑色から白色の3cmにもなる大ぶりの花を旺盛につけて目立ちます (図2、図3)。このためハナノキという地方もあります。果実は種子を持つ袋状部位が主に8個車座状に集まった特異な形状を示し9、10月頃に熟します (図4)。

分布は山地帯で、宮城県から新潟県以西の本州、四国、九州、沖縄、濟州島、中国と広域ですが、個々の林地では比較的まれで中々出会えません。相模湖周辺も分布域ですが人工林造成の時に雑木として除去されてしまったのかも知れません。

シキミは有毒植物として有名で、劇物法で劇物と指定されているのだそうです。植物の各部位が全て有毒で食べると中枢神経がマヒして死ぬこともあるといいますが、これをヤマガラやヒメネズミが収穫し貯食するなど野生鳥獣が利用するという記述がありました。中国南東部からベトナム北東部原産のトウシキミ (*Illicium verum*) の果実はシキミとよく似ていますが毒性はなく、八角茴香 (はっかくういきょう) とも呼ばれる中華料理の代表的香料です。あまり似ているのでシキミの実を誤食 (誤使用) する事故・事件がこれまで何度も出ているのだそうです。

シキミは佛花として知られています。神事に使うのはサカキ (榊) ですが佛事ではシキミを使うのが普通です。シキミは香りが強いのと毒性があることから死者を邪鬼から守る意味があるとされます。さらに、昔は土葬が普通だったので死者に対する野獣などの危害防止も期待され、棺桶にシキミの枝葉も詰めて埋葬したという話もありました。統計によるとシキミ生産県として鹿児島、宮崎、愛媛、静岡、高知が多く、地域では岡山や和歌山に多い市町村があるとされ西日本で多く使われてる様子が窺えます。

葬祭を始め様々の佛事に使われる他に大きい材 (図5) には材そのものを使う有用な面があります。気乾比重は平均0.67程度とかなり大きく材は緻密で狂いが少ないため轆轤 (ろくろ) ・寄木 (よせぎ) ・象嵌 (ぞうがん) などの細工物の他に、数珠 (じゅず) や天秤棒などを作りました。シキミの天秤棒は疲れないと評価されていたという記述がありました。先人は工夫を凝らして使ったようで評価も高かったようです、しかし資源量が少ないため用途や規模は限られていました。科学的な研究事例が見つかりませんが、材にも毒性成分がありそうですから食器やコップなどには適さず口にしないものに限る注意が必要だと思えます。



図1 シキミ

20201030 宇久須西

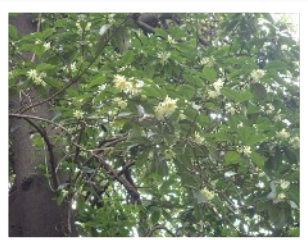


図2 シキミ

20190310 小石川植物園東京



図3 シキミの花

20250321 つくば実験植物



図4 シキミの果実

0251007 実験植物園つくば



図5 シキミ樹幹

20190310 東大小石川植物園東京

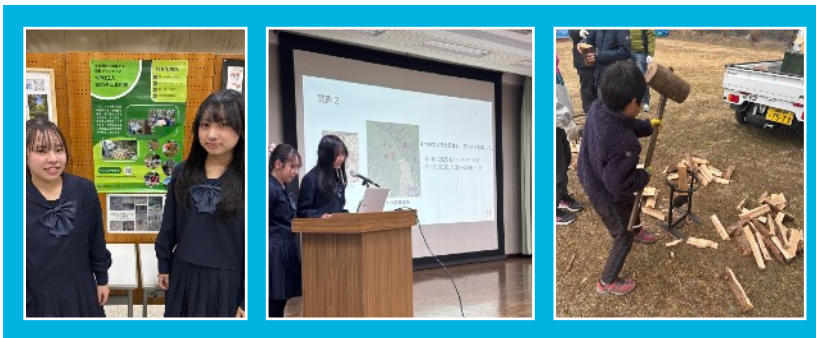
桜井 尚武 (本会、会員)

## 【活動報告】 相模原市生物多様性シンポジウム&小原の郷体験プログラム開発

2月21日に相模原教育会館大会議室において、さがみはら生物多様性ネットワーク設立10周年記念事業「さがみはら生物多様性シンポジウム」があり、市内で活動する団体から本会も事例報告しました。今回は、普段の間伐や、間伐材を活用してのデジタルものづくりを発表の中心にはせず、高校生が中心となって取り組んできた探究活動の成果を発表してもらいました。具体的には、間伐を進めている区画で、森は明るくなってきた印象があるのに、下草が回復しない理由についてシカ害を念頭に様々な調査を行った内容を発表しました。同内容は3月の地理学会でも発表予定ですのでそちらもご期待ください。

2月7日には小原の郷の施設改修に伴い、小原の郷を拠点とした体験プログラムの開発を相模原市相模湖まちづくりセンターと共同で取り組んできました。その2本目です。今回は薪割り体験、チェーンソーを使ったスウェーデントーチづくり体験、ちょっとした木工体験の3本立てとしました。当日は雪予報となったため、当日欠席のご家族もありましたが、薪割りに興味があるというキャンプ経験が多そうなご家族ばかりで、車に積めるだけの薪を持って帰ってもらいました。スウェーデントーチもハスクの電動を使ってもらったため、そのパワーと切断能力に終始驚かされていました。前回の沢体験と合わせ、施設改修後のレギュラープログラムとして実施していきたいと考えています。

宮村 連理（本会、副理事長）



### 参加にあたって：

初参加者は、9時15分までにJR相模湖駅前に集合です。服装、持ち物については、汚れても良い服装、着替え、滑らない靴 成るべく皮製手袋、万一の怪我に備えて保険証、飲料水、主食、昼食

### 危機管理・救急対応：

危険管理・救急体制・森林ボランティア保険の準備の他、会として可能な限りの体制を敷いていますが「怪我・事故は、自己責任」です。

## NPO法人

### 緑のダム北相模

名称：特定非営利活動法人 緑のダム北相模

現地事務局：〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町12 かどや食堂内

支援団体：セブン-イレブン記念財団

積水ハウスマッチングプログラム

国土緑化推進機構・緑の募金

ChangeX（AWS助成）

協働団体：神奈川県、相模原市、小金井市、マルモ出版、

東京学芸大学環境教育研究センター、

（社）東京学芸大EXPLAYGROUND推進機構



緑の募金



一般財団法人  
セブン-イレブン  
記念財団



SEKISUI HOUSE  
MATCHING PROGRAM



Amazon  
Community Collaborator